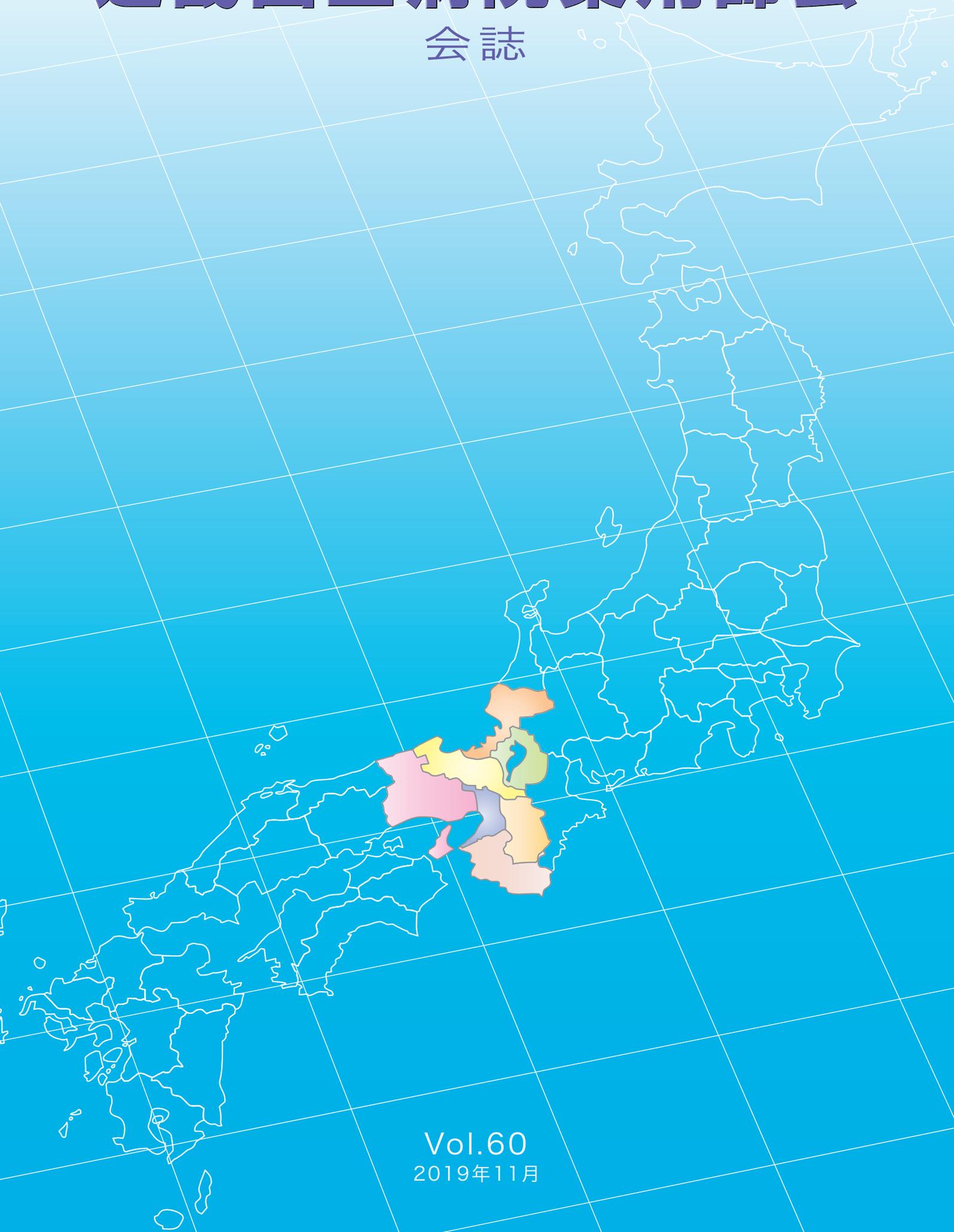


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.60
2019年11月

目 次

提言.....	2
	敦賀医療センター 粉川 俊則
薬剤部紹介.....	3
	大阪南医療センター 辰己 晃造
2019年度 近畿国立病院薬剤師会チーム医療委員会シンポジウム報告.....	5
	兵庫あおの病院 岸本 歩
第 73 回国立病院総合医学学会に参加して.....	7
	宇多野病院 山階 規子
趣味のページ～ギター始めました～.....	8
	大阪医療センター 足立 紗知
地区会報告.....	9
編集後記.....	12

提言

～とにかく何でもやってみよう～

敦賀医療センター 粉川 俊則

私が病院薬剤師になった昭和 63 年は、今と全く異なり、病院薬剤師の業務の種類は極めて限られたものであったと記憶しています。最初に勤務した民間病院では、調剤と薬品の在庫管理くらいで、医療安全などという言葉もなかったように思います。その後、平成の 30 年間は、紆余曲折はあったものの、薬剤師業務の幅やその深さは加速度的に広がっていきました。そんな中、私は平成 4 年に国立病院に採用され、上司からの指示や自身の希望で、幸いにも多様な仕事をすることができました。成功したもの、失敗したもの、役に立ったもの、赤恥をかいたもの、いろいろです。例えば、基礎から勉強しながらの輸血用血液製剤管理業務、多様な診療科の病棟での薬剤管理指導業務、効率化のための調剤室全体のレイアウト変更や自動錠剤分包機の調整、深夜まで研究しながらの学位取得、PMDA に出向して治験相談や新薬審査等、その他にもいろいろありましたが、今になって振り返れば手当たり次第、とにかく何でもやってきたように思います。その時は失敗や無駄だと感じたものも多くありましたが、むしろ成功したものよりも、失敗したもの、無駄だと感じたものの経験が、今の私の仕事の土台になっているような気がします。

「とにかく何でもやってみよう」といっても、自分のやりたい事や好きな事ばかりでなく、あまり気の進まない仕事や異動を命じられることもあると思います。そんな時でも、腐らず誠実に一生懸命に対応していれば、いずれその経験や実績が、将来の自身を助けてくれると思います。これは私自身が経験し、不思議に思ってきたことですが、どのような配置や業務でも、ジタバタしつつも一生懸命に誠実に対応していると、どういうわけか、困ったときに助けてくださる先生や、懇切丁寧に指導して下さる先生が現れたり、節目毎に思いもよらない先生に引き上げていただくこともありました。ここで「誠実」という言葉を繰り返し使いましたが、これは、かつて上司から、仕事でも何でも誠実であることが一番、と教えて頂いたことがあったからです。「とにかく何でもやってみよう」は、この提言のテーマですが、これには「誠実」があってこそ意味があると考えています。もちろん、私はこれまでずっと誠実、一生懸命であり続けたわけではありませんが、いつの間にか長く働いてきた私は、自身の経験からこのように思うのです。

実はこの提言、ごく当たり前のことを、もっともらしく書いているだけなのですが、皆さま、もしかしてイヤイヤやっている仕事があったり、今の配置に不満を感じたりしていませんか。ほんの少し考え方を「とにかく何でもやってみよう」に切り替えて、誠実に一生懸命に陽気に元気に生き生きと対応してみれば、それは決して将来無駄にはならないはずですし、きっと誰かが見てくれていると思いますよ。さらには、薬剤師人生の終盤に「よくもまあ何でもやってきたもんだ」と振り返れるように、頑張っていきましょう。

薬剤部紹介



独立行政法人 国立病院機構
大阪南医療センター

【病院概要】

- ・病床数: 430 床
- ・診療科: 内科(内分泌・代謝、腎臓、血液等)・循環器科(脳循環器科を含む)・消化器科・呼吸器科・リウマチ・膠原病・アレルギー科・心療内科・精神科・神経内科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・心臓血管外科・小児外科・産婦人科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・歯科・麻酔科・病理診断科
- ・理念: 私たちは、皆さまの生命と健康を守るため、
最良の医療を行い、安心と満足を提供できるよう努めます



大阪南医療センターは、大阪府の河内長野市に位置しています。河内長野市は大阪市都心まで電車で約 30 分の距離にあり、比較的交通便利の地にありながら、市全体を壮観な山並みが囲み、市内に居ながらにして大自然を満喫することができます。

【沿革】

当院は、昭和 20 年に元大阪第一陸軍病院(堺市金岡市)が、駐在軍の接收により現在地(旧陸軍幼年学校跡)に移転し、平成 16 年 4 月の独立行政法人化に伴い、「独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター」に名称変更され、現在に至ります。

当院は、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、地域の医療機関や大学病院と連携しながらの専門的な質の高い医療の提供、がん診療に従事する医師等に対する最新の医療技術に関する研修、相談支援機能として「がん相談支援センター」の活動などを行っています。その他、エイズ拠点病院、BFH(赤ちゃんにやさしい病院)認定施設等にも指定されており、南河内医

療圏の中心的役割を担っています。政策医療としては、循環器病、がん、骨・運動器疾患、免疫異常に関する専門的な医療等の機能を備えており、特に免疫異常については、近畿グループの中心的施設として、高度専門医療施設等との連携の下に、高度で専門的な医療、臨床研究、教育研修及び情報発信の機能を備えた施設です。

【薬剤部概要】

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長 2 名、主任 7 名（調剤主任、薬務主任、製剤主任、病棟業務管理主任、医薬品情報管理主任、治験主任）、薬剤師 17 名、薬剤助手 3 名の 30 名で構成されています。当院では、平成 24 年より病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しました。平成 28 年より病棟薬剤業務実施加算 2 の算定を開始しています。院内のチーム医療（ICT、NST、褥瘡、がん化学療法、PCT、認知症サポートチーム、糖尿病教室）にも積極的に参画し、それぞれの専門知識を活かして、多職種と連携を図っています。入院支援センターでは全入院予定患者さんに対して、服用しているすべての医薬品の服用状況を確認し、主治医や看護師に情報提供しています。また、手術や検査に伴う中止薬の有無や中止期間の確認を行い、患者さんにお伝えしています。

当院は、薬薬連携の強化に力を入れており、入退院時情報共有シートを運用し、地域の薬局薬剤師と入院前の服用薬や退院後の薬剤情報等についてお互いに情報提供を行っています。また、南河内薬薬連携協議会として、定期的に学術講演会を開催しており、近隣の病院薬剤師や薬局薬剤師と、薬薬連携の強化を図っています。さらに、河内長野薬剤師会と「院外処方疑義照会プロトコル」について合意し、令和元年 11 月より運用を開始し、地域の薬剤師会との連携を深めています。



（文責：辰己 晃造）

2019年度 近畿国立病院薬剤師会チーム医療委員会シンポジウム報告

チーム医療委員会委員長 岸本 歩

日時：2019年10月26日(土)13時～15時

担当：近畿国立病院薬剤師会 チーム医療委員会

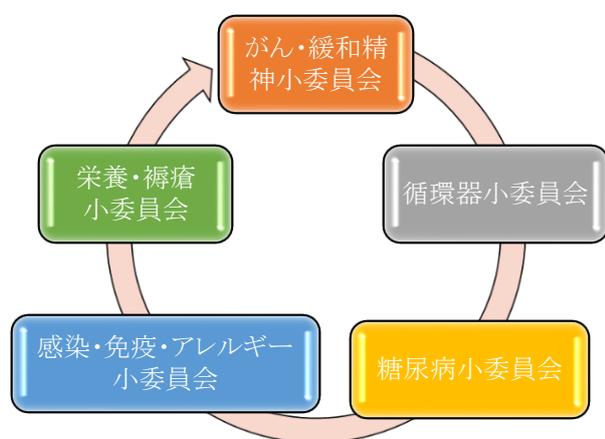
場所：生田神社会館 大会場 4階「富士・蓬莱」

目的：チーム医療の実践に関する知識の修得と討議を実施することで会員相互間の情報共有と臨床薬剤師の資質向上を図る。

参加人数：114名（常任理事等運営参加者含む）

近畿国立病院薬剤師会チーム医療委員会担当の委員会シンポジウムが、無事開催されましたので報告します。昨年同様、事例検討をとおして、チーム医療委員会小委員会に設定されている、癌・緩和、循環器、感染、糖尿病、栄養・褥瘡の5領域の各視点から、治療・副作用マネジメント、チーム医療での薬剤師の関わり等についてワールドカフェ型ディスカッションを行いました。事前に事例検討に使用する症例と各領域のアセスメントポイントを参加者へ提示し、シンポジウムでは参加者全員がすべての領域を回れるよう、15分×5ラウンドでディスカッション施行。

【ワールドカフェ型ディスカッション】



- 5 島領域(小委員会毎)テーブル分かれる
- 1 テーブル6 名程度 小委員会毎の視点でディスカッション
- ワールドカフェ形式で席替え
- 5 島領域(小委員会毎)テーブル全て回る



テーブルには、各領域の小委員長が予め準備した症例検討のヒントや解説が配置されており、スムーズに意見交換が行えるよう工夫しました。昨年度は、5島(領域)の移動時に位置がわかりにくいのご意見がありましたので、席札を利用して表示を追加しました。

初めに委員長から進行の説明を行い、タイムキーパー進行を担いました。参加者は、自身のカードに従った領域へ移動後は自由座席制となります。ファシリテーター(小委員長、副小委員長)、常任理事の先生方のサポートもあり、積極的に質問し、意見交換を行う参加者の様子が伺えたと思います。また、今回は実務実習生の見学参加が提案され、実習施設の薬剤師の方と二人ひと組で行動していただきました。しっかり症例を勉強して参加されている薬学生に圧倒された若手会員もいたようです。

最後に、委員長より症例の全体講評と各小委員長が課題に関する解説を行い、参加者が今回のシンポジウムで得られた情報や知識、感想の共有に務めました。

今回のシンポジウムの課題は、1 症例検討をとおして、癌・緩和領域では「免疫チェックポイント阻害剤使用患者把握に必要な事項の確認」、感染領域では「抗菌薬のエンピリック治療から投与計画まで」、糖尿病領域では「シックデイ・ステロイド投与時の血糖値について」、循環器領域では「副腎不全の理解」、栄養・褥瘡領域では「褥瘡対策・不足栄養対策」など、幅広い内容となりました。

終了後に行ったアンケート調査について、集計結果を一部報告いたします。

アンケートは 90 名より回答をいただきました。(ワールドカフェ参加者 99 名:回収率 90.9%)。

・今回のテーマの内容に興味・関心をもてた 89.9%

・ワールドカフェ方式は SGD と比べてどうか 良かった 89.9% どちらでもない 10.1%

(回答理由: 書記をせずにすむため・時間が適切・メンバーが変わるので役が固定しなくて良かった・意見交換しやすかった・サポートの先生に聞きやすい構造だった・ディスカッションが進みやすいところとなかなか進まない時がある)

・今回のワールドカフェで得られたこと・よかったこと ベスト3

○意見を言いやすい(自分の意見が言えた)

○他の施設の方と話げできた(面識・交流げできた)

○新しい知識を知れた(広がった)

・今回のワールドカフェの改善点・気づいたこと

●進行が難しかった

●移動の時間が短く感じた

●症例のバックグラウンドなどが細かすぎてポイントがわかりにくく予習が大変であった

その他のご意見

◎ファシリテーターの皆様、準備から当日の進行までありがとうございました

◎専門性も適正であり、担当しない部門でも理解できた

ご協力ありがとうございました。

今回のシンポジウムのアンケート結果報告及び Question & Answer 形式解説をチーム医療 HP に掲載して会員の振り返りに活用していただきたいと考えております。

本シンポジウムの開催にあたり、企画・運営等でご指導・ご協力頂いた先生方、このような機会を与えて下さった会員の先生方に深く御礼申し上げます。

第73回国立病院総合医学会に参加して

宇多野病院 山階 規子

令和元年11月8日、9日に名古屋国際会議場で行われた第73回国立病院総合医学会に参加させていただきました。第73回目となる今学会のテーマは「令和における国立医療の挑戦～明日は変えられる～」です。医療・医学はAI・ビッグデータ・ゲノム医療など最先端を取り入れつつ進化していかなければならない状況の中、今後の医療需要や地域ニーズを見据えて、職員の働き方改革やキャリアパスなどにどのように取り組み、誇りをもって働き続けられる職場環境づくりを行うか、医療現場をどう変えていくか、という思いが込められていました。



そのテーマの中で、今回私は「PBPMに対応した回復期リハビリテーション病棟における処方代行入力業務拡大後の評価」について発表し、幸いにもベストポスター賞をいただきました。発表を通じて他施設の方からの質問を受け、今まで当たり前に行ってきた薬剤師による処方代行入力業務を導入するための難しさ、またどれほど責任が重い業務であるかということを改めて実感し、今後につながる課題も発見できました。

また当院だけでなく他施設の医師や看護師、その他のコメディカルの方々の講演、シンポジウム、ポスター発表により、他職種の業務内容や取り組みを学ぶことができました。日々の業務では知ることができない内容も多く、それぞれの職種が専門性を活かして働くことの重要性を再度認識しました。

今回の学会の全員交流会は名古屋港水族館で行われ、今回の学会ポスターのようなイルカショーを見ることができました。

医療従事者が集まっている中でイルカ健康診断が行われ、会場のあちらこちらから医療専門用語が聞こえて、ライトアップされた夜のイルカショーでしたが、なぜか働いている気分になりました。



今回の学会で学んだことを普段の業務に活かせるよう、これからも頑張っていきたいと思えます。

趣味のページ～ギター始めました～

大阪医療センター 足立 紗知

南京都病院の桑原先生からバトンを受け継ぎました、大阪医療センターの足立紗知と申します。初めまして。桑原先生とは同時期に国立病院機構 近畿グループに入った間柄ではありますが、彼女は「存在するだけで面白い人 No.1」だと常々感じております。いつも周りを和ませてくれる愉快的な人物です。

私の好きなことと言えば、読書、映画、ゲーム、明石主任の観察などです。何か新しいことを始めたいと日頃から思っており、この度ギターを始めました。ギターを選んだ理由は、中学二年生の男子のような発想ですが、弾けたらカッコ良いと思ったからです。また、ピアノや金管楽器などと異なり、初期投資もそこまで高くないのも理由の一つです。

ギターにはアコースティックギター(アコギ)とエレキギター(エレキ)があります。アンプを通さず、ギターボディの共鳴によって音を出すのがアコギです。アンプを通して使用し、ロックバンドなどでよく用いられているのがエレキです。今回、私は弾き語りができるようになるのが目標なので、アコギを購入しました。また、シマムラ楽器の店員さんに、「初めてなら YAMAHA 良いと思います」と言われたため、YAMAHA のスモールなボディのアコギを購入しました。

今はまだ A コードと D コードしか分かりませんが、スタジオジブリの曲や、椎名林檎の「丸の内サディスティック」の弾き語りできたらと思っております。練習して少しずつ上手になっていきたいと思っているので、ギターの上手な方、ぜひ教えてください！

拙い文章でしたが、ご拝読ありがとうございました。次回は、大阪南医療センターの新田亮先生にお願いしております。新田先生、よろしくお願い致します。



地区会報告

<京都北部・福井地区>(地区理事:朝日信一)

日時:2019年11月22日(金)19:00~21:00

場所:敦賀市

参加者:舞鶴医療6名、敦賀医療6名、あわら病院:3名

出席率:62.5%(出席者15名/会員数24名)

議題:

1. 新会員紹介、人事異動について
2. 新地区理事・新副地区理事の紹介
新地区理事 橋詰 宏美先生(敦賀医療センター 製剤主任)
新副地区理事 塚原 優太先生(舞鶴医療センター 調剤主任)
3. 懇親会

<京都南部・滋賀地区>(地区理事:喜田孝史)

日時:2019年11月22日(金)19:30~21:30

場所:京都市

参加者:京都医療センター21名、南京都病院5名、紫香楽病院4名、
東近江総合医療センター10名、宇多野病院9名

出席率:65.3%(出席者数:49名/会員数:75名)

議題:

1. 懇親会
2. 各施設の現状報告、意見交換
3. 新地区理事について
新地区理事 田邨 保之先生(南京都病院 薬務主任)
新副地区理事 保井 健太先生(京都医療センター 薬剤師)

<兵庫南部地区>(地区理事:田中亮)

日時:2019年11月22日(金)19:30~21:30

場所:明石駅周辺

参加者:姫路医療7名、神戸医療13名、兵庫あおの病院3名

出席率:56.1%(参加者23名/会員数41名)

議題:

1. 現在の兵庫南部地区理事・副理事の2020年3月まで任期延長について、2020年4月以降兵庫南部地区は部長の退職や人事異動により多数の入れ替わりが予想

される。そのため、現在の地区理事を 2020 年 3 月まで継続することを提案し、承認いただいた。

2. 各施設の現状について

各施設の現状について各施設の代表者から報告。

兵庫あおの病院 岸本薬剤科長

姫路医療センター 竹松主任薬剤師

神戸医療センター 田中主任薬剤師

3. 懇親会

<大阪北部・兵庫東部地区> (地区理事:森田知子)

日時:2019年11月15日(金)19:30~

場所:和食 たちばな グランフロント大阪

(大阪府大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪南館7階)

参加者:国立循環器病研究センター22名、大阪刀根山医療センター8名、

兵庫中央病院7名

出席率:56.0%(参加者37名/会員数66名)

議題:

1. 新会員紹介

国立循環器病研究センター(1名)

2. 理事会報告

3. 次期地区理事・副地区理事の選出

地区理事:大阪刀根山医療センター(竹原健次 薬剤師)

副地区理事:国立循環器病研究センター(高野舞 薬剤師)

4. 意見交換会

<大阪南部地区> (地区理事:関口知弘)

日時:2019年11月15日(金)19:00~21:00

場所:難波

参加者:大阪医療17名、大阪南医療13名、近畿中央呼吸器10名

出席率:44.0%(参加者40名/会員数90名)

議題:

1. 次期地区理事の選出

2020年度地区理事・副理事について選出した

2. 人事異動について

報告なし

3. 意見交換会

<奈良地区>(地区理事:大津佳美)

日時:2019年11月13日(金)19:00~

場所:西大寺パル

参加者:奈良医療センター 5名、やまと精神医療センター 3名、

出席率:88.9%(参加者 8名/会員数 9名)

議題:

1. 施設報告

◇奈良医療センター

- ・ 10/17(木)第15回平城漢方勉強会を開催。
- ・ 11/8~9 国立病院総合医学会 高村薬剤師ポスター発表

◇やまと精神医療センター

- ・ 11/8~9 国立病院総合医学会 續木薬剤科長ポスター発表

2. 次期地区理事・副地区理事の選出

理事:やまと医療センター川角薬剤師

副理事:奈良医療センター海家主任薬剤師 に決定した

<和歌山地区>(地区理事:松本 信彦)

日時:令和元年11月21日(木)19:30~21:30

場所:和歌山県 田辺市

参加者:南和歌山医療センター 6名(17名) 和歌山病院 7名(7名)

出席率:54.1%(出席者 13名/会員数 24名)

議題:

1. 各施設近況報告

南和歌山医療センター 上田主任薬剤師

和歌山病院 松本主任薬剤師

2. 学会関連

南和歌山医療センター 1学会 2演題発表(国立病院機総合医学会 2演題発表終了)

和歌山病院 1学会 1演題発表(国立病院機総合医学会 1演題発表終了)

3. 意見交換会

編集後記

♪ 10月に東日本を襲った令和元年台風19号は、記録的な大雨となり河川を氾濫させ広域に甚大な被害をもたらしました。2019年度チーム医療シンポジウム学術講演会での熊本医療センター鶴崎先生の講演では、改めて災害時に私たちが出来ること、やらねばならないことをご教示していただきました。また、平時の備えの重要性を再考する機会になったことと思います。会員の先生方も自施設の災害対策マニュアルの確認或いは見直しをされましたでしょうか。

♪ 一方朗報として、ラグビーワールドカップ2019日本大会で日本代表が初のベスト8入りを果たしました。熱戦、激闘の場面に日本国内はもとより世界中から高い関心と注目を集め、南アフリカ代表の優勝で幕を下ろしました。多くの日本人にとってラグビーへの関心を深めることになったのではないのでしょうか。その中で「One for all, All for one」の言葉が注目されました。意味は「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」です。チームが1つの目標に向かって全員が自分の役割をしっかりと果たすことが重要である。私たち薬剤師も患者さんへ最良の医療を提供できるように「One for all, All for one」で頑張っていきましょう。

♪ 本年も残すところ、1ヶ月余りとなりました。本田先生が会長に就任され4年が経とうとしています。今月号が最後の会誌となります。来年からは新会長の下、体制もリニューアルされます。これまでご支援ご協力いただき、ありがとうございました。

♪ ご多忙の中ご寄稿いただきました先生方、ありがとうございました。11月号は、提言、薬剤部紹介、チーム医療シンポジウム報告、学会報告、地区会報告、そして趣味のページと充実した内容となっています。どうぞ、最後までご熟読下さい。

(S.F.)

近畿国立病院薬剤師会会誌	第六十号 令和元年 11月発行
発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局 (独立行政法人国立病院機構京都医療センター薬剤部内)	京都市伏見区深草向畑町 1-1
発行人 会長 本田 芳久(京都医療)	
編集 広報担当理事	山下 大輔(京都医療)
広報委員	小田 亮介(国立循環器疾患研究センター)
	藤原 佐知子(宇多野病院)
	喜田 孝史(京都医療)
	中西 剛志(姫路医療)